

活動名		団体名	大野第六区子どもの居場所づくり委員会
子どもたちに「生きる力」をつける「六区子ども塾」		地域	広島県廿日市市
		代表者	委員長 青木 健夫
		支援金額	20万円
活動概要	<p>・ 地域の子どもの健全な発達を保障するために、地域を中心に子どもの居場所を創出し、そこを拠点に体験活動を取り入れた「六区子ども塾」を運営している。2014年に開始、現在（2016年4月）3年目を迎えた。</p> <p>・ この活動を通して、子どもたちの「生きる力」を育てると共に地域活動に参加できる地域人に成長してくれることを願っている。</p> <p>◆実施時期 通年で25回 会場は地域の2集会所及び地域内にて</p> <p>◆参加人数 児童（塾所属児童43名）、支援スタッフ（コーディネーター）8名×25回実施で児童延べ724名、支援スタッフ延べ150名、地域講師30名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員：904名</p>		



しめ縄づくりに挑戦。きれいにできました。



9月の敬老会でけん玉の技を披露。大人気でした。



囲碁将棋を習いました。う～ん、ええ手はないかのう。



曾根先生をお招きして「折り紙教室」廿日市市奥教育長様も飛び入りされました。

◆実施に伴う効果

- ・ 少子化や地域での子育ての状況が変化中、「子どもの居場所」問題は大きな社会課題になりつつある。私たちのような取組みが他所でも始まるなど、大野地域では広がりを見せてきた。
- ・ 呉市「まちづくり委員会」の訪問、市民センターでの発表など、多くの共感を得る活動ができた。

◆苦勞した点

- ・ 塾加入児が増加、会場確保や材料費調達に苦勞した。
- ・ 何と言っても、体験活動の中身づくりに苦勞する。今、何を体験させることが必要か、集団の中でどんな力を付けさせるかなど、スタッフで協議、十分に思考することが大切である。
- ・ 27年度はマツダ財団からの支援が大きかった。これからは会費を中心に賄っていかねばならないが、一層内容を精査していく必要がある。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・ 土日の活動を中心とした「塾」にしているが、さらに恒常的な活動（いつでも居場所がある）に拡大したいが会場やスタッフ等限界がある。今の方法を充実させるしかないようだ。
- ・ 一応定員を 45 名程度としているが、加入希望状況によっては具体的方法の再検討が必要であろう。

◆活動を終えての感想・意見等

- ・ 今の子どもたちは、まさに漂っている。学校から帰っても居場所のない子、何をしてすごしてよいか分からない子、SNSばかりしている子…課題は多い。
- ・ 2年間活動して子どもたちの変化に確信が持てるようになってきた。さらに頑張っていきたい。